



BTMU Washington Report

BTMU ワシントン情報 (2012/ No.019) 2012 年 9 月 26 日
三菱東京 UFJ 銀行ワシントン駐在員事務所
所長：寺澤 英光
Terry Terasawa, Chief Representative
e-mail address : hterasawa@us.mufg.jp

米国大統領選挙は直接対決へ ～ 共和党の「最後のチャンス」は風前の灯か ～

民主・共和両党の全国党大会が終了し、両陣営は全米各地での選挙キャンペーンに注力している。残す所 1 ヶ月余となった大統領選挙の、最後の山場となる 10 月の正副大統領討論会の開始を目前に控え、党大会を総括した上で今後の選挙戦を展望してみたい。

1. 共和党全国党大会 (8 月 27 日～30 日、於フロリダ州タンパ)

(1) 共和党の戦略

ロムニー候補は予備選挙を通じて、保守派の信認を必ずしも得られなかった。斯かる状況を踏まえ、共和党は全国党大会で挙党体制を確立すると共に、ロムニー候補の「人間味アピール」と徹底したオバマ政権批判を通じて、大統領選挙の趨勢を決める中間層に対して一気に「ロムニー&ライアン・ブーム」を巻き起こす事を戦略の柱とした。

結果的に、党内保守派の信任厚いポール・ライアン下院議員 (ウィスコンシン州選出) を副大統領候補に指名し、ロムニー候補の公約も予想以上に保守化、また党内有力者が次々とサポート役として登壇するなどして、目論見通り磐石な党内基盤が構築された。

(2) 正副大統領候補の受諾演説 (次頁【表 1】参照)

党大会二日目に登壇したライアン候補は、未亡人として起業した実母のエピソードを披露し、中小企業への理解を示すと共に、自ら中産階級の強化にコミットするとの立場を明らかにした。また、政策面ではオバマ大統領の経済政策と財政政策を強く批判し、持論である「小さな政府」による自律的な経済成長の必要性を訴えた。

これまで自分自身の生き立ちや家族について多くを語らなかったロムニー候補は、党大会最終日の受諾演説に於いて、両親から受けた影響、父親から受け継いだモルモン教への強い信仰、及び妻への愛情などを聴衆に訴え、その人間味をアピールした。

ロムニー候補もオバマ路線からの脱却を訴えたが、批判の急先鋒役はライアン候補に譲り、自身は大統領としての貫禄や正当性を強く訴える役回りに徹した。政策面に於いては、共和党の伝統的な保守主義に基づく様々な景気・雇用対策に言及したが、夫々具体性に欠け、それらの実効性の評価に付いては 10 月の正副大統領討論会に持ち越された。

【表1】 共和党正副大統領候補の受諾演説概要

	ロムニー大統領候補	ライアン副大統領候補
人物アピール	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 元ミシガン州知事の父はメキシコ生まれ ▶ 37歳で会社設立、5人の子を持つ愛妻家 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 未亡人として学位を取得、50歳で起業した母親を模範とする
ビジョン・政策	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 米国が失った希望を取り戻す ▶ 米経済の再生、強い米国を復活 ▶ 1,200万人の雇用を創出 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ メディケアを維持、強化 ▶ 規制緩和による経済成長 ▶ 税制改革、連邦支出抑制による財政均衡
オバマ政権への批判	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 米国に失望と分裂をもたらした ▶ より多くの国民が極貧生活を送り、平均家計所得は4,000ドル下落 ▶ 保険料・食品価格・ガソリン価格が上昇 ▶ 景気対策は却って雇用減少を招く ▶ イスラエルやポーランドなどの友好国を見捨て、キューバやロシアなどには寛容 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 今や米国人の6人に1人は貧困層 ▶ オバマケアはメディケアから多額の予算を奪う ▶ オバマケアの関連規則は2,000ページ以上に及び、自由な米国社会に反する ▶ 連邦債務は10兆円から16兆円に増加 ▶ 経済危機に始まり、雇用危機に終わる

出所：共和党全国党大会での受諾演説をベースに当駐で作成

(3) 共和党全国党大会の成果

正副大統領候補の受諾演説以外では、愛を語り自分の伴侶こそ米国が必要とする指導者であると強調したアン・ロムニー夫人や、マルコ・ルビオ上院議員（フロリダ州選出）、クリス・クリスティ・ニュージャージー州知事、コンドリーザ・ライス元国務長官を始めとする共和党保守派の有力者が次々に登壇し、党大会に花を添えた。

最後まで党内予備選を争ったロン・ポール下院議員（テキサス州選出）は、全国党大会でも代議員202名を獲得し一人気を吐いたが、大きな流れを作るには至らなかった。

このように、共和党大会はテレビ等のメディアを通して確認できるほど盛況となり、ロムニー陣営の思惑通り、ロムニー・ライアン両候補が保守派を含む幅広い支持を共和党党内から集め、熱狂の内に終了した。

一方、党大会参加者の大多数を白人が占め、「古き良きアメリカ」への賛辞が続き、共和党が結束を固めれば固めるほど、無党派層が離反していくような印象を禁じえなかった。事実、共和党大会後に公表された調査結果から、通常5ポイント程度あるとされる「コンベンション・バウンス（党大会後の支持率上昇）」は殆ど確認できなかった。

2. 民主党全国党大会（9月4日～6日、於ノースカロライナ州シャーロット）

(1) 民主党の戦略

共和党全国党大会が「演出された熱狂」との印象が拭えなかった一方で、翌週に開催された民主党全国党大会では、初日から最終日までが極めて戦略的に計画され、無党派層に次期政権もオバマ大統領に委ねる事が必然と思わせるような構成となった。

初日に登壇したミッシェル・オバマ大統領夫人は、オバマ大統領こそが中流階級の経済的苦悩を自身で体現していると語りかけ、オバマ政権の医療政策、教育政策、及び税制は彼の人生経験に基づくものだとして力説した。その上で、米国は現下の苦境を克服するために、あと4年間オバマ大統領を必要としていると強く訴えた。

二日目のクリントン元大統領の演説は、完全に流れを作った。予定を遥かに越える約50分にも及んだ演説の中で、ブッシュ（子）元大統領が引き起こした景気後退は、自身を含むどの大統領でも4年間での完全修復は不可能だとして、オバマ大統領を擁護した。「強い者だけが勝ち残る社会を望むのであれば共和党、繁栄と機会を共有し国民が支え合う社会を望むのであれば民主党」との訴えも明瞭で、無党派層に響くものとなった。

民主党は、オバマ大統領の人的魅力や、リーマン・ショック後の米景況の谷の深さなど、ある意味ではセンシティブな問題を大統領本人には語らせない戦略により、最終日の正副大統領による受諾演説のお膳立てを完璧に整えた。

（2）正副大統領の受諾演説（【表2】参照）

最終日に登壇したバイデン副大統領は、4年間傍らで見てきたオバマ大統領を独自の視点で紹介し、大統領就任初日から米国の経済危機に直面しながらも、毎日米国民のために心を捧げ戦ってきた大統領の姿を切々と語った。ロムニー候補とライアン候補に対しては、「米国の衰退を徒に強調し、自らを過度に卑下することは適当ではない」と激しく非難し、副大統領候補討論会での直接対決へ布石を打った。

オバマ大統領は受諾演説の中で、オバマ政権第一期目の成果を強調しつつ、年初の一般教書演説と統合的な製造業、エネルギー、教育、財政、医療制度改革、外交等、主要な政策に幅広く言及し、リーマン・ショック後の諸問題から米国が完全復活する為には、再選を果たし、米国の前進（Forward）を担保する事が必要と強く訴えた。

また、自身のビジョンである「最大の中産階級と最強の経済を作り上げた、米国の価値観を取り戻す事」を実現するには4年以上の時間が必要として、国民に理解と忍耐を求め、「あなたには選択肢がある（You have a choice）」と国民に熱く語りかけた。

【表2】民主党正副大統領の受諾演説概要

	オバマ大統領	バイデン副大統領
一期目の実績	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 50万人の製造業の新規雇用を創出 ▶ 自動車産業を救済、100万人の雇用維持 ▶ イラク戦争の終結、ビンラディン排除 ▶ 過去に積み上がった雇用問題は短期間では解決不能 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 過去29ヶ月の間に450万人の雇用創出 ▶ 自動車産業を救済、100万人の雇用維持 ▶ ビンラディン排除
二期目のビジョン・政策	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 今後4年間で米国の完全復活を図る ▶ 雇用、教育、エネルギー、国家安全保障、財政赤字削減を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 復活途上にある米国を更に前進させ、強い米国を再建 ▶ 国内に雇用を創出
ロムニー陣営への批判	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 選挙公約の具体策が不十分 ▶ 外交政策が未熟 ▶ 過去の減税と規制緩和が諸問題の根源 ▶ 大学学費や事業資金に親からの借金を助言するなど、現実から乖離している 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 自動車産業救済に反対 ▶ ビンラディン排除に否定的 ▶ 富裕層減税のための中産階級増税 ▶ 若者が教育を、失業者が職業訓練を受けられる政策を「依存文化」と位置付け

出所：民主党全国党大会での受諾演説をベースに当駐で作成

(3) 民主党全国党大会の成果

民主党は初日の基調演説に初めてヒスパニック系のジュリアン・カストロ・テキサス州サンアントニオ市長を登用し、その後も非白人系や女性の演説者が相次ぐなど、後述の通り、共和党に比し圧倒的な多様性を見せ付けた。

ミッシェル夫人とクリントン元大統領が流れを作り、オバマ大統領が締め括った党大会の熱狂は無党派層にも響いた。大会直後のギャロップ社の調査では、拮抗していた支持率は49%対45%とオバマ大統領がリードし、大統領支持率も昨年5月のビンラディン殺害以来の50%となる等、一定の「コンベンション・バウンス」が認められた。

3. 「党綱領」に見る両党の選挙公約

両党大会では、選挙公約となる「党綱領 (Platform)」も採択された。前述の通り、民主党綱領は基本的に、オバマ大統領が年初の一般教書演説に盛り込んだ内容と整合的となる一方、共和党綱領は減税・規制緩和を柱に「小さな政府」を志向する。なお、エネルギー・環境政策に関しては後日、詳細の分析を加える予定である。

【表3】「党綱領」に見る両党の主な選挙公約

	民主党	共和党
経済・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 中産階級の底上げ ▶ 貿易自由化推進、海外業務外注に課税 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 規制緩和、減税を推進 ▶ 民間活力による経済成長
財政	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 財政均衡 ▶ 債務上限引き上げ 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 政府支出を20億ドル削減 ▶ 債務上限引き上げに反対
税制	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ブッシュ減税は中産階級以下に継続 ▶ 高所得者の所得税増税 ▶ 法人税を28%に引き下げ 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ブッシュ減税を継続、所得税減税 ▶ 中産階級にはキャピタルゲイン免除 ▶ 法人税を25%に引き下げ
エネルギー・環境	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 石油・ガス掘削を推進 ▶ 温暖効果ガスと有毒水銀を抑制 ▶ クリーンエネルギーに財政支援 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ エネルギー自給推進 ▶ シェールガス規制見直し ▶ 地球温暖化リストから二酸化炭素を除外 ▶ カナダ石油パイプラインの建築を認可
安全保障・外交	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 海兵隊を2万人、陸軍を8万人削減、国防費を4,870億ドル削減 ▶ 2014年までにアフガニスタンから撤退 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 軍事力を背景に和平推進 ▶ 国防費を1,000億ドル増加 ▶ 同盟国のイスラエルとの関係を重要視
対日本、アジア政策	<ul style="list-style-type: none"> ▶ アジア太平洋地区でのプレゼンス維持 ▶ 日本のTPP参加を支持 ▶ 米中戦略経済対話を促進 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 日本など同盟国との関係強化 ▶ TPP推進 ▶ 対中国へ強硬姿勢、為替操作国と認定
金融規制	▶ ドット・フランク法の完全施行	▶ ドット・フランク法廃止
医療制度	▶ オバマケアを積極推進	▶ オバマケア廃止
同姓婚	▶ 同姓婚を容認、同姓夫婦の権利を保護	▶ 同姓婚に反対
移民	▶ 「ドリーム法案」推進	▶ 「ドリーム法案」反対

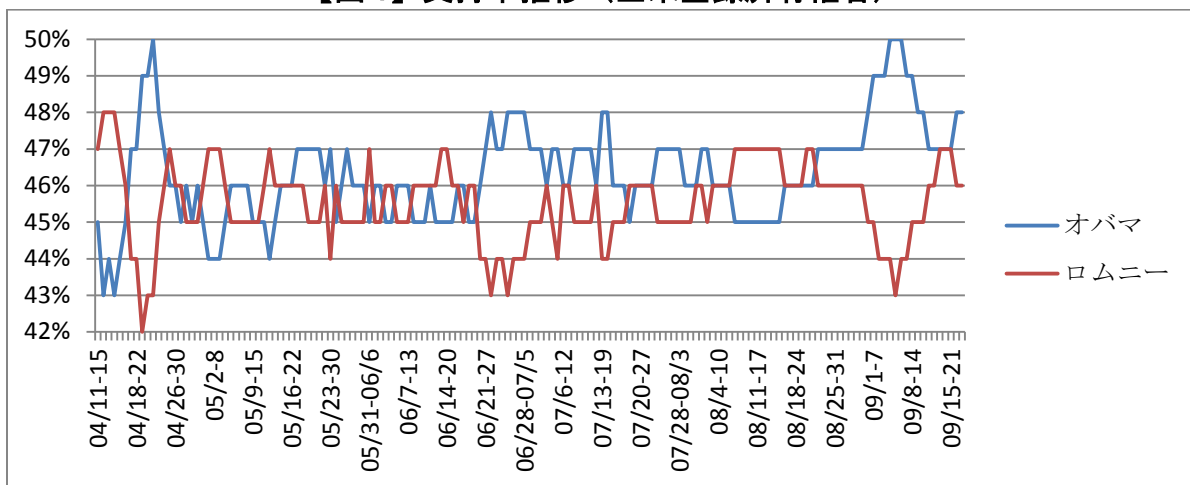
出所：両党の党綱領をベースに当駐で作成

4. 今後の展望

(1) 全米支持率の推移 ～ 両者の支持率は再び均衡

ギャラップ社が全米の登録済投票者を対象に調査した、両候補者の支持率の推移は【図1】の通りとなっている。全国党大会前は45～47%の水準で拮抗していた両者の支持率は、大会後の「コンベンション・バウンス」の有無により、オバマ大統領がロムニー候補を最大7ポイントリードした¹。しかし、直近(9月18-24日)の調査では、オバマ大統領とロムニー候補の支持率に有意な差が見られない情勢となっている。

【図1】支持率推移(全米登録済有権者)



出所：ギャラップ社

(2) 州毎の状況 ～ 「オバマ優勢」の状況に

全米の支持率を見る限り、今回の大統領選挙は「接戦」の様相を呈しているが、各州で当選者を決める「勝者全取り方式(Winner-takes-all)」を採用する米国に於いて、全米調査より重要な州毎の状況に目を転じると、選挙の優劣は一変する。

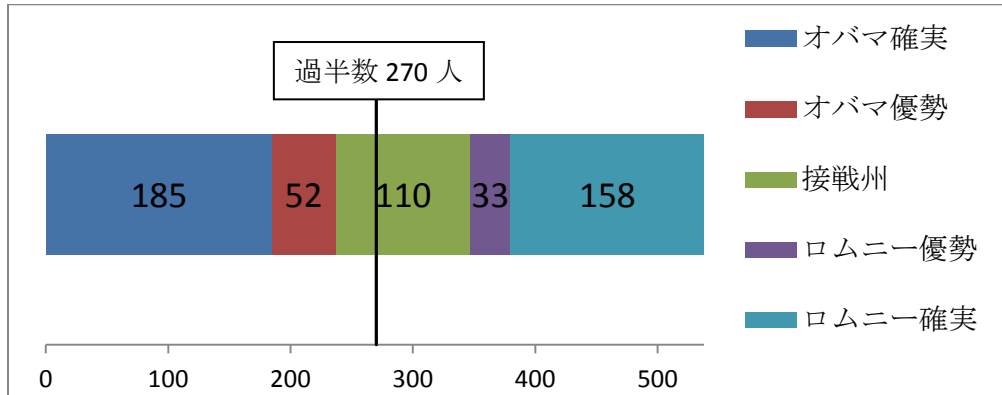
9月21日付のニューヨーク・タイムズ紙は、現時点ではオバマ大統領が237人(確実185人、優勢52人)、ロムニー候補が191人(確実158人、優勢33人)の選挙人獲得の公算が高いと予想した(次頁【図2】)。選挙人110人を擁す「接戦州(Tossup state)」9州でもオバマ大統領がロムニー候補を支持率でリードし、直接対決を前に、当選に必要な270人を獲得する争いでの「オバマ優勢」が鮮明になっている(次頁【表4】)。

オバマ陣営は、フロリダ州ではヒスパニック系有権者に移民政策を、高齢者にエンタイトルメントを重点的に訴え、オハイオ州では自動車産業の復活をアピールするなど、各州の特性に基づいた戦略が奏功しているものと思われる。また、ロムニー陣営に対するネガティブ・キャンペーンに於いても、その内容を有権者のターゲットに応じて肌理細やかに使い分けており、選挙戦術の洗練度ではロムニー陣営を凌駕している。

¹ 9月11日現在、オバマ大統領50%、ロムニー候補43%

Washington D.C. Representative Office

【図2】 選挙人の獲得予想



【表4】 接戦州での支持率

州	選挙人数	オバマ支持	ロムニー支持
フロリダ	29人	49%	44%
オハイオ	18人	49%	42%
ノースカロライナ	15人	NA	
バージニア	13人	49%	42%
ウィスコンシン	10人	51%	45%
コロラド	9人	48%	47%
アイオワ	6人	50%	42%
ネバダ	6人	49%	46%
ニューハンプシャー	4人	45%	40%

出所：何れもニューヨーク・タイムズ

(3) 自滅に向かうロムニー候補 ～ 党大会の流れに乗れず失言相次ぐ

ロムニー候補が7月の欧州歴訪に於いて、外交センスのない発言により内外で物議を醸し出した事は記憶に新しい。今月に入っても、11日に発生した在リビア米公館襲撃事件に関してオバマ大統領の弱腰の外交政策を批判したが、大使を始めとする4人もの犠牲者を出した国家的悲劇を政治利用したとして、逆に強い非難を浴びる所となった。

また、5月の非公開集会での不適切発言²が今月になって判明。ロムニー候補の事実認識に疑問を呈す声や、国民の約半数を見下したとして批難する向きなど、大きな波紋を呼び、早速オバマ陣営にネガティブ・キャンペーンの材料とされた。

このように、ロムニー候補は先月末の党大会成功の流れに乗れず、寧ろその後の「失言」により、中間層のみならず保守層の離反を招きかねない事態を招いている。

² 5月にフロリダ州で開催された共和党支持者との会合で、「米国民の47%は非納税者で政府に依存しており、オバマ大統領を支持している」と発言したとされ、ロムニー候補も発言そのものは否定していない。
Washington D.C. Representative Office

(4) 多様性でも民主党が圧倒 ～ アングロサクソン依存が続く共和党

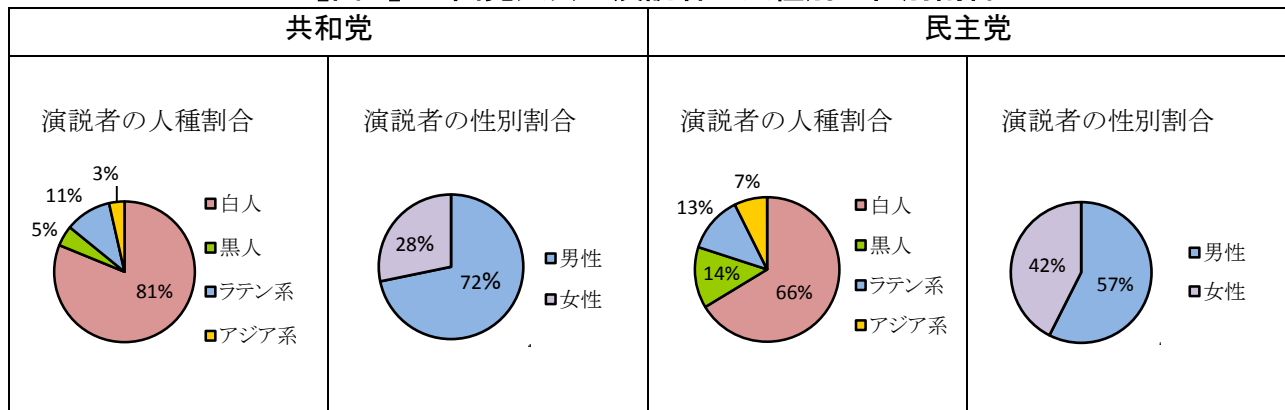
8月27日付のフィナンシャル・タイムズ紙は「今回の大統領選挙が共和党にとって最後のチャンス³」との衝撃的な見出しを掲げ、支持母体であるアングロサクソン系（白人）に配慮したヒスパニック政策を採らざるを得ない共和党は、米国の人口動態上、大統領選挙で勝利する事が今後益々困難になるとの見通しを示した。

足許では、白人は米国民全体の63%を占め、ヒスパニックは16%に過ぎないが、新生児の過半は非白人、内26%はヒスパニックとの統計があり、2040年までには白人が全体の半数を割り込むとの見方もある。共和党が白人を中心とする保守派で結束すればするほど、ヒスパニックの離反を招く。この傾向は年々強まり、最終的には共和党の政権奪還を著しく困難にする苦境が訪れると予測している。

確かに両党の移民政策は、4ページで整理したように対極をなしている。民主党は、不法移民の子弟の強制送還に反対し、一定の規準を満たした者には在留資格を与える「ドリーム法案」の推進を掲げている。一方の共和党は、不法移民者の子弟にも軍入隊後に永住権や国籍取得の道を開くとしているが、白人からの要請が強い不法移民の取り締まり強化を同時に掲げ、「ドリーム法案」にも反対の立場を鮮明にしている。

両党の違いは、全国党大会の演説者の多様性にも表われている。当方で人種と性別に峻別して整理した所（【図3】）、共和党の演説者の実に81%が白人、72%が男性だったのに対し、民主党は非白人が34%、女性が42%を占めた。

【図3】全国党大会の演説者の人種別・性別割合



出所：両党の公開資料等をベースに当駐で作成

両党大会のハイライトの一つとなった「銀幕スター」の競演も、戦術の違いが際立つ結果となった。共和党サイドはハリウッドの重鎮、クリント・イーストウッド（男性、白人、82歳）がシニカルな役回りを演じ、ロムニー候補の露払いを務めたのに対し、民主党は新進著しいエバ・ロンゴリア（女性、メキシコ系ヒスパニック、37歳）を起用、美しくも力強いオバマ賛辞は、民主党大会の盛り上げに一役買った。

³ This election could be the Republican's last chance

<http://www.ft.com/intl/cms/s/0/7a7ee7e8-ed2e-11e1-9980-00144feab49a.html#axzz27PuWXUMT>

Washington D.C. Representative Office

民主党の戦略・戦術が奏功してか、党大会後（9月9日～11日）に保守系 FOX ニュースが実施した調査によると、オバマ大統領が非白人層、女性層から圧倒的な支持を得ており、その効果が無党派にも波及している様子が確認できた（【図4】参照）。

【図4】非白人・女性・無党派の支持率

	非白人	女性	無党派
オバマ大統領	77%	53%	44%
ロムニー候補	14%	39%	39%

出所：FOX ニュース

（5）共和党は「最後のチャンス」を活かせるか ～ 攻め手を欠くロムニー候補

昨年10月21日付「BTMUワシントン情報」で考察した通り、第二次大戦後、再選を果たせなかった現職大統領3名⁴は夫々、景気後退期に有効な対策を打ち出せなかった事を主たる敗因としている。

足許の米国景況も力強い回復基調には程遠いが、ロムニー陣営はこの「好機」を活かし切れていない。景気低迷は寧ろ、中間層にエンタイトルメントの必要性を再認識させる、民主党のキャンペーン材料になっている印象すら覚える。

オバマ大統領は、9月25日に国連総会で演説した。昨年と同機会では十人以上の国・地域的首脳との会談を持ったが、今年はネタニヤフ・イスラエル首相らとの「二国間首脳会談」を全てクリントン国務長官に委ねた。自身は演説後にワシントンに戻り、翌26日には戦略州オハイオ州で遊説するなど、来る直接対戦へ万難を排して臨む構えである。

11月6日の大統領選挙戦までに残された時間の経過は、攻め手を欠くロムニー候補にとっては益々不利に働く事となろう。風前の灯に見える「最後のチャンス」を活かし、米国の歴史に名を刻むために、ロムニー陣営に残されたオプションは多くない。

（本稿は、リサーチ・アシスタントの堀真央が収集したデータに基づき、所長の寺澤が執筆した。）

以下の当行ホームページで過去20件のレポートがご覧になれます。

<https://reports.us.bk.mufg.jp/portal/site/btmureports/>

* 画面左の Washington DC Political and Economic Report (Japanese) をクリックして下さい。

本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。意見、判断の記述は執筆時点における当駐在員事務所の見解に基づくものであり、文責は全て駐在員事務所長にあります。本レポートの提供する情報の利用に関しては、利用者の責任においてご判断願います。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は、出所をご明記ください。

⁴ ジェラルド・フォード（共、74-77）、ジミー・カーター（民、76-80）、ジョージ H.W. ブッシュ（共、89-93）
Washington D.C. Representative Office